# 巻末資料

## 巻末資料　１）仮置場必要面積の推計方法（搬入速度，処理速度を考慮した算出方法）

・搬入速度，処理速度を A～C の 3 パターン設定して推計方法のイメージなどを示す。

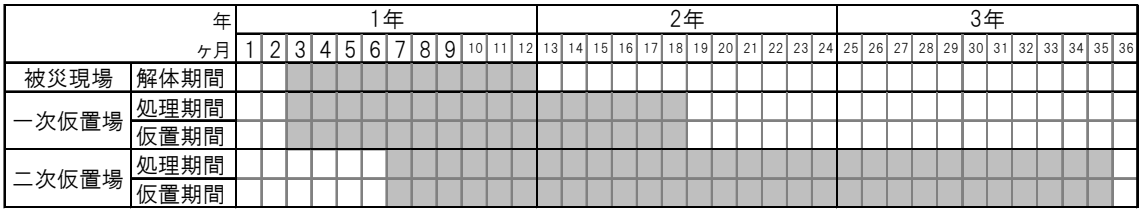
・災害廃棄物対策指針による算出方法は，処理期間を 2 年とした場合は一次仮置場の仮置量は全体量の 1/2，処理期間を 3 年とした場合は一次仮置場の仮置量は全体量の 2/3 となる。

### ①パターン別の工程，解体・処理イメージ

表１　仮置場面積推計のパターン

| | | パターン | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | A | B | C | |
| 被災現場 | 解体期間(年) | 1.0 | 1.5 | 2.0 | 初期準備期間を含む |
| 一次仮置場 | 処理期間(年) | 1.5 | 2.0 | 2.5 | 初期準備期間を含む |
| | 最大仮置量 | 38% | 27% | 21% | |
| 二次仮置場 | 処理期間(年) | 2.5 | 2.5 | 2.5 | 撤去等の期間を含む |
| | 最大仮置量 | 59% | 38% | 17% | |

表２　パターン A の工程



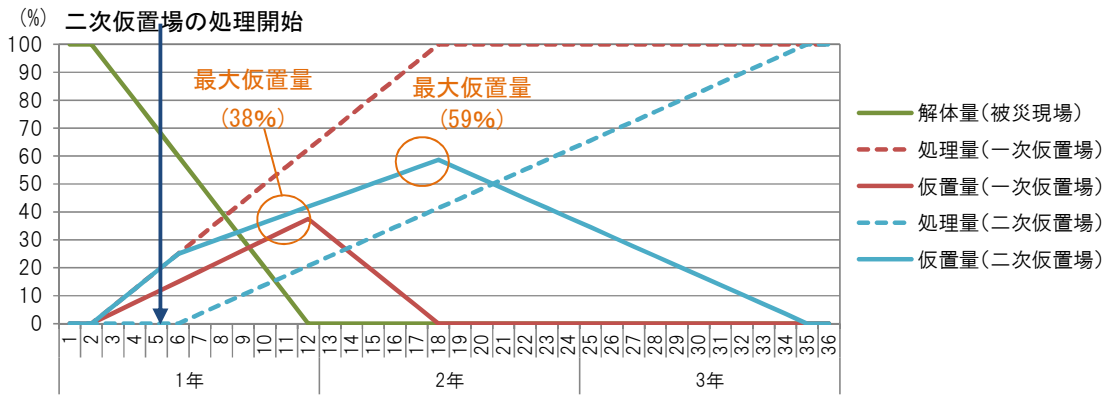
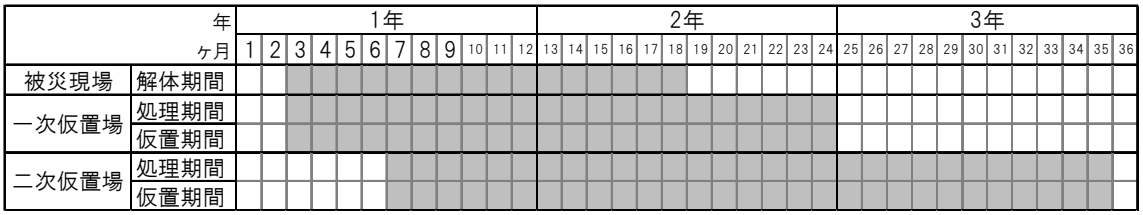




図１　パターン A の解体・処理イメージ

表３　パターンＢの工程



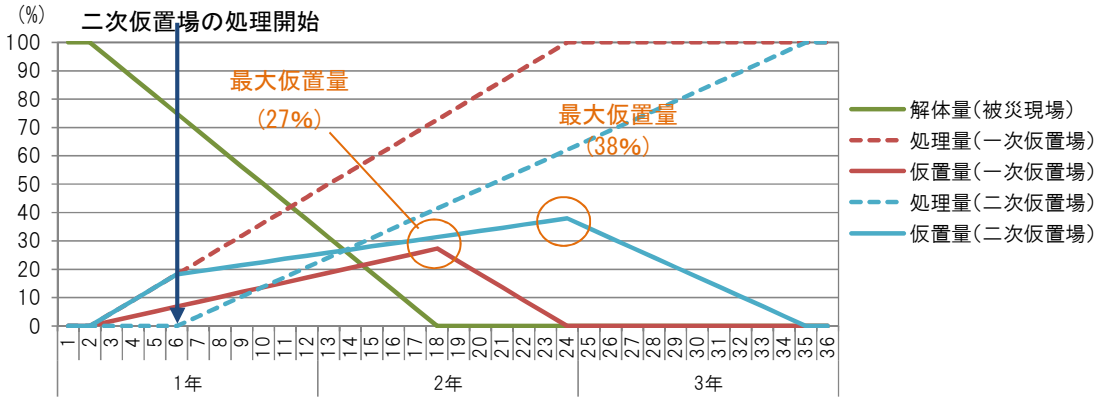
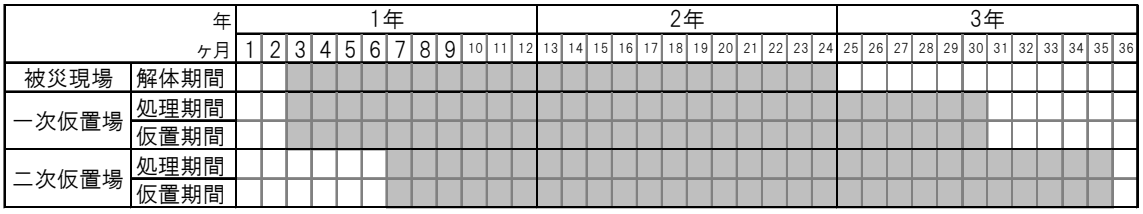




図２　パターンＢの解体・処理イメージ

表４　パターンＣの工程



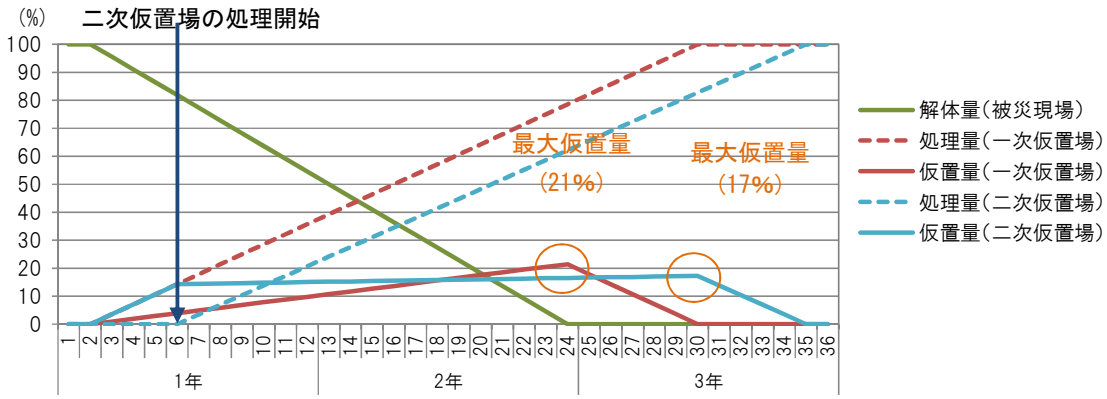




図３　パターンＣの解体・処理イメージ

②仮置場必要面積の算出方法

・必要面積は，災害廃棄物を図 4 に示す模式図のように配置した場合について算出した。

・1 箇所当たりの底面積は 5,000 ㎡となるよう災害廃棄物を仮置きすることを基本とし，容量が少ない場合は表 5 に示す 200～4,000 ㎡で仮置きするものとした。

＜仮置場必要面積の算定式＞

仮置場必要面積＝（a＋①余裕幅）$^2$

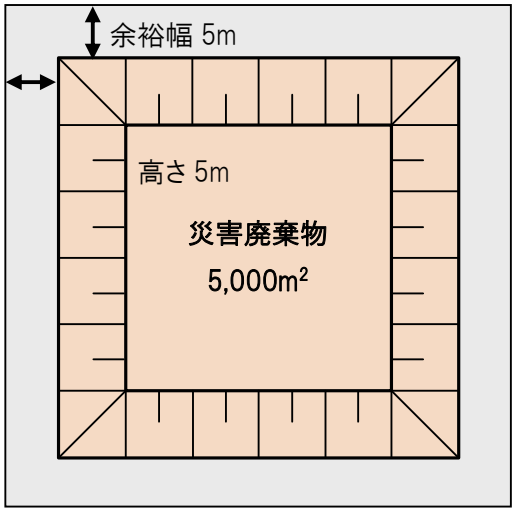
①余裕幅　：5m

②仮置量＝（$a^2$＋$b^2$）×1/2×高さ

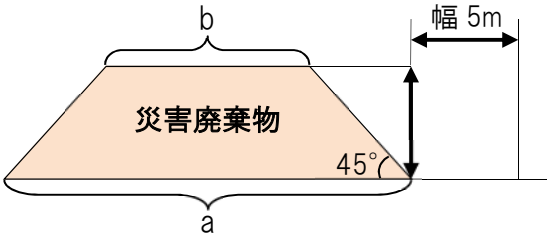
③仮置場高さ　：5m

④法面勾配　：1:1.0

⑤災害廃棄物等の見かけ比重：1.0t/$m^3$　（混合状態の災害廃棄物の概ねの見かけ比重）




平面図




横断図

図 4　一次仮置場面積の模式図

表 5　仮置場面積と容量

| 底面積(m²) | 必要面積(m²) | 仮置量(m³) |
|---|---|---|
| 5,000 | 6,514 | 21,714 |
| 4,000 | 5,365 | 17,088 |
| 3,000 | 4,195 | 12,511 |
| 2,000 | 2,994 | 8,014 |
| 1,000 | 1,732 | 3,669 |
| 500 | 1,047 | 1,632 |
| 200 | 583 | 543 |